

財団だより

多摩川

2000.6 第86号



ドブネズミ (ネズミ科)
体長22～26cm。下水溝付近
などきたない水辺に住む。



2月20日開催された植樹祭

■多摩川現風景■

(42) 堤の桜を植える

この記事が出る頃には、燕が飛び交い、梅雨の雨が多摩川の川面に水の輪を作っていると思うが、この2月20日に多摩川の堤で桜の植樹祭が行われたことを伝えたい。

川の堤に桜を植えて、花見時には人が集まって楽しむ。昔から日本人が楽しんできた花見の行事である。多摩川の堤にも桜がところどころ見られる。桜の植樹は、治水上、堤を守るためには必ずしも良いとは言えず、流域住民の希望するほど積極的には認められてはいなかった。

川崎市中原区の等々力の土手で桜の植樹祭が行われた。地元の「多摩川さくらの会」が専門家を招いての桜の勉強会、土つくりの作業、樹種の選定など粘り強く、研究を重ね、なによりも河川管理者との話し合いの中に植樹の可能性を探った結果河川管理上支障のない形で実現したものである。市民からの植樹基金も式典時点で、目標達成寸前まで集まっていた。

みぞれまじりの強風の中の植樹祭ではあったが、地元の小学校の生徒も参加しての盛大なものであった。開花の時期の異なる10種類の桜が40本余、上流から

下流にかけて楽しめる趣向になっている。樹齢450年でダム水没の際、電源開発の総裁であった高崎達之助氏が奔走し、移植を成功させた「荘川桜」も植えられた。

この桜並木が1日も早く満開の花を咲かせ、この日参加した小学生が成人し、植樹の日のことを語りながら花見するのを見たいものである。

●関連する財団の研究助成

〈学術研究〉

- ①多摩川における河川敷利用の変遷について
1994年 三井嘉都夫 法政大学 (No.159)
- ②川崎・多摩川エコミュージアム構想をモデルとした市民・行政・企業、専門家におけるパートナーシップ型地域づくりに関する調査研究
進士五十八 東京農業大学 (現在、印刷中)

〈一般研究〉

- ①多摩川下流域における築堤がもたらした堤内地の環境変化に関する史的的研究
1989年 平野順治 大田区郷土の会 (No.59)
- ②多摩川をモデルとした「河川環境」の保全に関する住民参加型的手法・制度についての調査研究
山道 省三 多摩川センター (現在印刷中)

多摩川散歩

■イラストマップ

「水と緑のさんぽ路」■

川の未来探検隊 相島宏美

ここに一枚の絵地図があります。地図の左側に流れているのは多摩川。平行して中央から右下にかけて緑の流れがあります。これが、多摩川が長い時間をかけて浸食して崖を造った国分寺崖線と呼ばれる斜面で高さ20m位の斜面には豊かな緑が残されています。この多摩川と崖線に挟まれた二子玉川地図が絵地図の舞台です。

二子玉川園駅を出発し、多摩川の河川敷から野川・仙川・丸子川と川に沿って歩きます。岡本民家園や静嘉堂、瀬田四丁目広場（旧小坂邸）など見所の多い崖線地帯を通り、谷川緑道から再び二子玉川園駅に戻ってくる全長約4km、およそ2時間の散歩道をイラストマップにしました。

地図の兵庫島あたりは、タヌキがふり返り、野川下流の川型変更する場所にはカワセミの生息地があります。世田谷にタヌキやカワセミが？！

初めて絵地図を広げる人は驚きます。昔、里山で人々と共生していた動物は、今も環境に適応しながら残された自然の中で逞しく生きているのです。更に見ていくと、湧き水があり、川の流れが用水に取り込まれ、農村地帯であった世田谷の様子も発見することが

できます。

私たち川の未来探検隊は、平成10年に世田谷まちづくりファンドの助成を受けて、福祉の観点からも車椅子で一巡出来る散歩道コースを提案しました。今後の方向として、自然観察の要素を加えて多くの人に紹介できるイラストマップにすることに意見が一致しました。そして、鳥や生き物のイラストや湧水、用水を描き込んだ絵地図を表面に、情報を裏面に載せた「水と緑のさんぽ路」が出来上がったのです。

平成12年3月には、カラー印刷で3年間の集大成の地図が出来上がりました。印刷が仕上がった時の感動は言葉では言い表せないものがありました。僅かずつですが二子玉川地区の児童館や小学校、福祉作業所や地区会館などに配りました。現在、定期的に置いてある場所は以下の通りです。・鎌田区民センター・同センター内喫茶ぴあ・岡本民家園・瀬田四丁目広場・喫茶土筆・玉川ボランティアビューロー（但し数に限りがあります）この地図を手に、水と緑のさんぽ路を歩いて自然の楽しさを再発見していただければ嬉しく思います。なお、このマップはインターネットでご覧になれます。

アドレス <http://www.tamagawa-net.org/tamawork/data/map/map/sanpo/fsanp/htm>

◇問い合わせ先 川の未来探検隊 事務局
TEL/FAX 03-3422-2659



私と多摩川



百草八幡神社境内の収蔵庫と阿彌陀如来像【国重要文化財】
(三沢中学校区探検隊散策マップより)

—百草山の自然と文化財を守る会の活動—

百草山の自然と文化財を守る会 峰岸純夫

新宿発の京王線が多摩川を渡るとその進行方向左に展開する緑豊かな丘陵が百草山で、この山から流れる水は多摩川水系に注いでいる。山の緑が近付くとほっとすると多くの人は言う。

この丘陵の一部は四季折々憩いの場として親しまれている京王百草園がある。しかし、百草山全体の景観は、多くの個人・法人の私有地を含み、常に開発の危険にさらされている。

中世、この丘陵全域を含めて真慈悲寺という大寺院が栄え、近世・近現代には寺院、庭園として庶民に愛されてきた歴史と自然の豊かな百草山であった。しかし近年より松連坂・柊井坂など、百草園に向かった坂道の周辺や麓から林は急速に失われてきた。

百草園を中点に南北を結ぶ坂道のうち松連坂に突然巨大なクレーンが立ち、百草山はどうなるのであろうかとの危機感や柊井坂に面して残るわずかな雑木林も宅地開発されること、百草園北斜面の広大な土地を業者が転売してミニ開発されるかもしれないという動きがあり、何とかできないものかと市民の間から声があがった。

1995年10月に集まり、11月に百草山の自然と文化財について学習と討論の場を持ち、結成されたのが『百草山の自然と文化財を守る会』である。会の活動には各分野の専門家の協力も得て、広報

などで呼びかけ、歴史や文化財、百草山から流れる水—過去・現在・未来—、都市計画からみた自然環境の保全、百草山の生き物たち、野仏と初秋の野草、百草山の地質と地形の成り立ちなど学習会とフィールドワークを6回行った。またニュースの発行や写真記録と、百草山の自然と文化財を保全するための要望書とその署名運動をすすめ、7月3日には7037名の署名簿を添えて、市に要望書を提出（後日追加署名も提出）。遅れて都環境保全局にも提出し行政の支援をお願いした。着工目前とみられていた開発業者にも伝えた。

市は98年、百草園北斜面の緑地2.8㌔を所有者との間で10年間貸借契約を結び、公有地化の道を開く一方、都にも働きかけ、都も緑地保全に動きつつある。広大な土地開発をとりあえずストップさせた。また、市は96年より開発行為に建築確認行政を行う方針になっていたので、開発着手予定の業者に百草山の自然を守る観点も踏まえて理解を求めるなどの行政指導を行っている。市民運動は自治体の行政指導を支えることにもなった。また『百草地区緑のまちづくり計画』策定の検討委員にも参加し、98年4月発行の報告書にも会の思いとその経験を反映させることができた。

97年より市主催の三沢中学校区探検隊に加わり、散策マップを作成できた。これは「守る会」の活動の中で得た成果とそれを通じて生まれた地域の信頼や友情に負うところが大きい。

99年には2度ほど貸借契約地の保全管理の方法を探ったり滝のある流れを中心に作業などを行った。保全管理と広大な用地を取得するための財源確保の問題が今後に残されている。

2000年になり、百草園・百草八幡の区域（都市計画決定の「百草公園」2.6㌔）の西に連なって隣接する3㌔余の私有地の宅地開発が行われる。この開発に市の指導がどこまで可能であろうか。

また、『まちづくり計画』の範囲外の倉沢地区の緑が相続税の関係で失われる危険も迫っている。この地区も同じように自然と文化財の豊富な大切な里山である。今後の推移を見守り、その保全のための努力をしようと思う。（2000年5月記）

よみがえ

甦れ！多摩川

■入間川を歩く■

入間川は調布市の入間町、東つつじヶ丘町（3～2丁目、若葉町（3、1丁目）を流れる川である。水量がなく、降雨時を除いては流れのない川である。

京王線のつつじヶ丘に近い甲州街道付近から流下して野川に流入する1.75キロのたいへん短い一級河川である。いつものように下流から上流に向かって歩いてみた。

小田急線の喜多見駅で下車、北口を線路沿いに100米ほど歩くと小田急の喜多見電車基地につきあたる。基地の建物沿いに500米ほど北上すると、世田谷区立きたみふれあい広場上がる坂道の入口がある。高台になっている広場はよく植栽がほどこされた広々とした公園である。広場から見下ろすと、野川が枯れたすすきの中をゆったりと流れている。水量もまづまづである。

野川の右岸を北上して、ゴルフ練習場、テニスコ場からなる成城グリーンプラザを右手に見て進む。

河川管理境界の標識がたっており、上流が東京都、下流が世田谷区となっている。谷戸橋をすぎて200米ほどゆくと、入間川が流入している、といっても水がほとんどなく、河床が乾ききっている。

上流を迂回して橋をわたり入間川の流入口へ到着する。入間川の河口には小さな公園がある。

側道がまったくないので公道を迂回しながら、橋の上から川を望むしかない。川の構造はH型鋼柵渠といわれているもので、壁面は直立しており、壁面を支持するため上部にH型鋼を並べてある。河床の中心部は溝になっている。水はほとんど無く、ところどころ滲み出した水がたまっているだけである。落ち葉が河床に散っている。

川というよりは排水溝といったほうが一般的である。川の周囲の地形は丘陵地であり、民家が密集しているので、大雨でも降れば、ちょっと危険な状況になりそうな川である。橋についても、この川の状況にふさわしく、無名のガードレールの欄干の橋がほとんどで、僅かに確認できたのは、本村橋と甲州道にある川の上流端と思われる入間橋の二つである。

糟嶺神社という珍しい名前の神社がある。川の側壁にはスプレーで落書きが吹き付けてある。

本村橋を過ぎ、川は蛇行しながら家々を縫って行く。

東つつじヶ丘2丁目には武者小路実篤記念館が実篤公園の一角にある。かつては、町名にあるように傾斜地につつじが季節には咲いていたのであろう。やがて甲州街道に出て川は消えている。甲州街道にぶつかるあたりに入間橋という標示があり、甲州街道を対面にわたると、中仙川遊歩道がありたぶんこの中仙川に入間川は合流していたと思われる。

この川が一級河川であることは、たぶん河川法4条にある「国土保全上又は国民経済上とくに重要な水系で政令で指定したものに係る河川で建設大臣が指定したものをいう」に該当するからなのであろう。つまり、小さな川ではあるが、密集した住宅地にあり、傾斜の多い地形にあっては、危なくて、ちょっと目が離せないというわけである。

かわ せみ
翡翠

案内図



〈平成12年度研究助成選考結果〉

去る3月10日第42回定時選考委員会を開催し、平成12年度の研究課題の選考を行い、学術研究6件一般研究7件が採用されました。研究課題は次のとおりです。

〔学術研究〕

研 究 課 題	代表研究者	所 属
多摩川集水域におけるツキノワグマの土地利用についての研究〔主としてオスおよび若齢個体の移動分散様式について〕	山崎 晃司	奥多摩 ツキノワグマ研究グループ
多摩川中、下流における縄文時代以降の環境変遷と現環境の成立に関わる研究	杉原 重夫	明治大学 文学部 教授
内分泌攪乱物質による多摩川流域の土壤動物汚染の解明：環形動物貧毛綱「ミミズ」を指標に用いた解析	蒲生 忍	杏林大学 保健学部 教授
GISを用いた流域分類と流出現象のモデル化に関する研究—多摩川流域丘陵地への適用—	小口 高	東京大学 空間情報科学研究センター 助教授
多摩川上流丹波川流域における河川水質形成に及ぼす雪の効果	鈴木 啓助	信州大学 理学部 助教授
多摩川河川敷の河跡池における植物群落の生育立地と多様性	星野 義延	東京農工大学 農学部 助教授

〔一般研究〕

研 究 課 題	代表研究者	所 属
用水を総合的な学習に生かす一日野の用水を例として—	小坂 克信	日野市立日野第7小学校 教諭
住民の眼で見つけた多摩川の30年—蓄積データ解析による自然の変遷と自然観の変化についての研究—	柴田 隆行	多摩川の自然を守る会 代表
多摩川下流域における神社の境内の樹木の研究—特に樹種構成とその配置について—	秋山 好則	東京都立武蔵高等学校 教諭
多摩川最上流域における斜面崩壊の発生機構	林 誠	東京都立大学大学院 理学研究科 修士課程
地質野外実習地としての多摩川中流域および狭山丘陵に分布する上総層群の露頭の現状とそれに基づく教材開発	馬場 勝良	慶應義塾幼稚舎 教諭
『水みちマップ』をつくるための調査研究と井戸にみる多摩市の昔のくらし	山田 厚子	生活者の会
多摩川源流部の沢・尾根・滝・淵等の地名と由来に関する調査・研究	中村 文明	多摩川源流観察会 会長

▶▶▶ 寄贈文献の紹介 ◀◀◀

• 「[小さな社]の列島史」
著者 牛山佳幸 2000年 (株)平凡社

本書は「村の鎮守」として祀られている小社についてその成立事情や存在形態、変遷過程を解明している。印鑰社、ソウドウ社、女体社、ウナネ社を取り上げ、現地調査により立地条件や周辺環境の検討、民俗学、歴史地理学も考察している。

• 「河川の親水利用における安全対策の総合的研究第Ⅱ部」
発行 (財)余暇開発センター 2000年

河川の親水利用、安全性について四万十川と侍従川(横浜市)をケーススタディとして選定し地元住民・小学生が参加しさまざまな調査を行った。研究執筆者は三本木健治・土屋十園・天野礼子・尾上伸一・畔柳昭雄・渡会由美各氏です。

財団からのお知らせ

第6回とうきゅう環境浄化財団 助成研究ワークショップのご案内

「野生生物と人との共生 ～多摩川からの報告～」

環境問題において、人と野生生物との関係はたいへん微妙な間柄である。一方では絶滅し、あるいは絶滅の危機に瀕している生物があり、他方では人為により、生物が野生のまま生きられる環境が変化し、適正な個体数を超え農業、林業など人の生活に悪影響を与えている例も多い。

今日ほど、野生生物の保護と管理の問題が重要とされる時代はないと思われる。

財団の研究報告のうち、多摩川流域における野生生物の実態を知り、新たな環境回復の指針を探りたい。

プログラム

13:00	開会挨拶	とうきゅう環境浄化財団 理事長	新井喜美夫
13:05	報告1	「多摩川集水域におけるツキノワグマの生態に関する研究」 '93～'95年助成 茨城県自然博物館 学芸員	山崎 晃司
13:35	報告2	「多摩川流水域における新テレメトリーシステムを用いたアナグマの環境選択」 '95～'97年助成 建設省土木研究所 環境部緑化生態研究室 研究員	金子 弥生
14:05	報告3	「多摩川流域のオオタカの生息状況の実態調査とその保護策に関する調査研究」 '94～'96年 東京オオタカ保護連絡会 会員	尾崎 洋
14:35	休憩 (15分)		
14:50	総合討論会	コーディネーター とうきゅう環境浄化財団 評議員・客員研究員 コメンテーター 横浜市立よこはま動物園 園長	芳村 重徳 増井 光子
16:00	閉会		

日時／平成12年8月4日(金)
13:00～16:00

場所／国連大学 5階
Conference Hall

定員／100名

参加費／無料

主催／財団法人
とうきゅう環境浄化財団

※駐車場はございませんので、
車での御来場はご遠慮下さい。



申込方法／

往復ハガキに住所・氏名（勤務先の場合は役職名、自宅の場合は所属団体名）
各々の電話番号を明記し事務局までご送
付下さい。FAXでも可（要返信FAX番号）

申込み切／

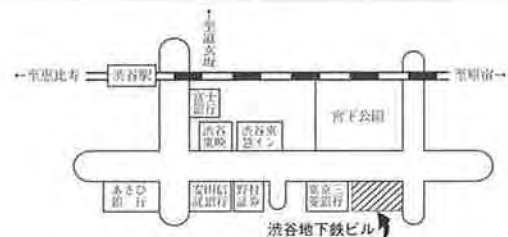
お申込みは先着順で定員になり次第、
切ります。（定員以内の場合は、7月19日
切ります）

お申込み・お問い合わせ／

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)

(財)とうきゅう環境浄化財団
☎(03)3400-9142 ☎(03)3400-9141

- 発行日 平成12年6月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141



*印刷所 雄文社 〒336-0001 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125